

2018年6月19日（火曜）

参加者：親子5組（子ども5人）

担当：村山恭朗 院生 3人 保育士：2人 スタッフ：2人

内容：ママ・トレ 第5回 「ぎりぎりセーフをきわめる！」

10:30～ 11:40



グループワークも熱心です。
（写真1）



子どもたちも楽しみながら
（写真2）



皆さんコツをつかんだようです！
（写真3）

ママ・トレの第5回目『ギリギリセーフをきわめる！』を行いました。
まずは宿題の実施報告から始めました。報告をする参加者の様子が、回を追うごとに明るくなっている印象を受けます。自分の子どもを褒めるときに、どんな表現だとより気持ちが伝わるのか、自分の子どものタイプが見えてきたという報告をきくことが多くなってきました。黙って抱きしめることで伝わるタイプなのか、『見ているよ』と視線を送るだけの方がいいタイプなのかなど、より効果的な表現に気づけることで親子の意思疎通がスムーズにいくことを実感されているようです。

ほめるタイミングは、行動の開始直後、終了直後、他の家族の前などが一般的にはお勧めですが、お子さんに応じて、また発達段階に応じて変えていくことが必要です。母親側の言葉かけや褒め方の種類を増やして様々な働きかけを知っておくことで、無駄に叱らなくてもすむ子育てができるようになります。また、子どもの行動に着目して観察することを意識することで、今まで気づけなかった子どもの姿が見えてきたと報告して下さる参加者もいました。今まで弟を泣かしているのかと思っていた場面が、弟を手助けしたいのにまだ幼いためうまく手助けできず、その結果として泣いていただけで、兄には全く悪気がなかったことに気づけたそうです。

本日の本題のギリギリセーフを極めるでは、観察シートの困ったところある項目が、どんな時にギリギリセーフにならないのかについて詳しく考えていきました。うまくいかないのが、いつ、どこで、だれと、何を なのかが見えてくると、そのデンジャラスタイム(時間帯)・デンジャラスゾーン(場所)・デンジャラスパーソン(相手)・デンジャラスタスク(課題)を見極めて、事前に大人側の対応を工夫することができます。こうして冷静に観察して分析をしていくと、発達上無理なことを要求していたことに気づけることもあります。成長を待とうと落ち着くことで無駄に叱らずに、ほめる場面を探すための心の余裕につながるようです。ギリギリセーフが見つからないこともよくあることですし、もしもデンジャラスパーソンが母親自身だと思ふことがあったとしても、一番身近な人にあまえがあるのは当たり前のことなので、落ち込む必要もないそうです。

不安にならずに取り組んでください。いよいよ次回は最終回です！